

解剖室における 循環式プッシュプル型換気装置 によるホルムアルデヒド対策

興研株式会社

2008年8月6日

解剖室に換気装置を設置する上での 諸課題(実習室内)

- 実習室内における換気装置の設置スペースに限度があること(空間面)
- 実習性をなるべく妨げないこと(行動面)
- 実習室内の視野を妨げないこと(教育面)
- 実習室内の定期的な清掃がしやすいこと(衛生面)

解剖室に換気装置を設置する上での 諸課題(屋外)

- 解剖室が地下室や高層建物の場合、ダクト配管で屋外排気することが困難(ダクトスペース、増設工事費、エネルギー動力費)
- ホルムアルデヒドのガス処理をせずに、屋外排気した際の近隣への影響(特に都市部)
- 屋外排気した際に排気量と同量の給気量を入れ、かつ献体管理上低温湿度に維持された空調でなくてはならない(空調設備増設、CO₂排出量増大)

循環式プッシュプル型換気装置の 主な特長

- 風量・風向が制御された気流(一様流)によりホルムアルデヒドを拡散せずに換気し、ばく露防止対策を実現
- 解剖室の空調効率の高い循環式の採用
- 高性能吸着フィルタでホルムアルデヒドを吸着して排気
- 全体換気や局所排気装置と比べて消費電力を抑えることができ、それによって温室効果ガス(CO₂)排出削減にも貢献できる装置
- 既存の解剖台をはさんで設置することが可能
- プッシュフード、プルフードは独立タイプでレイアウト変更に対応可能

循環式プッシュプル型換気装置 (セパレートタイプ)



PULLフード

PULLフード

サイズ(mm) 950 × 380 × 1200

風量 12(m³/min)

消費動力 200 (w)



PUSHフード

PUSHフード

サイズ(mm) 853 × 300 × 1100~1200

風量 5(m³/min)

消費動力 80(w)

プッシュプル型換気装置の設置事例 (水平流タイプ)

